

# RECORDING

The magazine for the recording musician®

## TRACK/MIX/MASTER

### —DO IT RIGHT!

Make The Best Records You've Ever Made

- Strategies For Successful Tracking
- How To Make A Good Mix Great
- Motown Magic—Mining The Secrets



Discovering  
**Joe Meek**—  
 And More



OCTOBER 2014  
 USA \$5.99  
 CANADA \$5.99  
 VOL. TWENTY EIGHT  
 NUMBER ONE



## Gear On Review:

**Antelope Audio Zen Studio**—world class sound on the go  
**Chandler Limited TG2-500**—Abbey Road's preamps in your 500 rack  
**Dangerous Music Dangerous Compressor**—transparency meets power  
**Dynaudio BM mkIII Series**—a stellar monitor line gets even better



# REVIEW

BY PAUL VNUK JR.



## Antelope Audio Zen Studio

高品質のオーディオインターフェイスをどこにでも持ち運べます

2014年1月号で私は、1Uラック搭載、USB 2.0プロトコルで低遅延性である前代未聞の32チャンネル高品質オーディオ変換を提供する驚くべきオーディオインターフェイスのレビューをしました - Antelope AudioのOrion32です。今月はAntelope社の最新インターフェイスであるZen Studioです。Orion32と同じクロッキングテクノロジー、USB 2.0接続、そしてコンバーター(24/192まで)を搭載、Zen Studioはアナログトラックカウント・入力20/出力14、さらに内蔵型12系統のマイクプリアンプ、オンボードDSPを持ち、これら全てをまとめて、そのポータブル型の機器重量は4.4パウンド(約2キロ)なのです。

### Zenの容貌

Zen Studioは48cmのラックに搭載されていますが、機器本体は幅42cmで、ラックイヤーはなし、4つのゴム製フットに乗っており、持ち運びに便利な大きくしっかりとした持ち手付きです。Zen Studioは“掴んで出かける”というイメージでデザインされたもので、持ち手は固定式です。現在はラックマウントイヤーは入手できませんが、今後可能になるでしょう。

携帯性をふまえた上で、このユニットは、赤いエナメルコーティングされた安定感のある金属製シャーシを使用しており、非常にがっしりしています。画面はつや消しされた分厚い鉄製、同じく分厚いプレキシガラスのマルチカラーLCDスクリーンを採用しています。これらもまたOrion32と同型です。Orion32と異なるのはZen Studioはファンクションボタンが3つのみだと言う点ですが、大型のマルチファンクションステップ式ロータリーエンコーダー/プッシュボタンを搭載しています。

Antelopeは業界のデザイン部門ですばらしい仕事をしました。前面はすっきりと簡素で背面は出入力端子がぎっしり。スペースに無駄はありません。12のマイクプリアンプのうち4つは前面に、それ以外は背面

に配置しています。それぞれがNeutrikコンボジャックを使用し、1/4インチ(6mm)ラインレベルが使用でき、前面の4つにはHi-Zインストゥルメント入力が可能です。

背面には2系統のTRSチャンネルインサート、2系統の1/4インチモニター出力用端子、出力用SPDIF端子、BNCワードクロック用出力端子、8つの出力ラインを追加できる2系統のTASCAM-スタイルDB-25コネクタ、USB 2.0ソケット、外部電源接続用のネジ式ACジャック、持ち手が無い側面には2系統のADATデジタルライトパイブコネクタが搭載されています。前面には個別アサイン可能なヘッドフォン出力端子もあり、これらはボリュームの調節だけでなく、完全に異なるモニターミックスにも使用可能です。コンバーターのスペックは非常に素晴らしいものです: Antelopeは、118 dBダイナミックレンジ、D/Aの場合はTHD+Nが-98dB、A/Dでは-105dBだと述べています。

### Zenのソフトについて

ソフトウェアの点では、Zen Studioはドラッグ・アンド・ドロップマトリックスルーティングプログラムを採用。これはOrion32と類似していますが、大きく拡張されています。オールインワンのポータブルでバイスとしてZen Studio™はフェーダーのないデジタルミキシングコンソールで、DAWの負荷となるただのI/Oボックスではありません。またそのように機器を最大に活用するために不可欠なソフトウェアルーティングを使用しています。

Zen Studio™マトリックスソフトウェアは、4つの完璧な4チャンネルミキサーを備えています。これらはミュージシャンをトラックングできる複数のモニターミックス用として、2系統のヘッドフォン出力端子として、モニター出力として、アナログとデジタルの組み合わせ用として設定可能で、この二つは、ヘッドフォンアンプとして、また、ライブミックスを捉える2つのトラックレコーダーです。

Zen StudioのソフトウェアではオンボードDSPエンジンのアクセスも可能にします。現在これはイコライザーコンプレッション形状で(リバーブもすぐに登場します) これらはトラックング、モニター、DAWからのミックスダウンにも使用可能です。音質的に機能的でありあなたのDAWが備えるようなものです。コンプレッサーとしての難しさは感じざるを得ませんが、各コンプレッサーが重要なニー設定を行う点は評価します。

### プリアンプ、配線、インストゥルメント

Zen Studioのプリアンプは、上限65dBのゲインと、-108 dBのTHD+Nに対応しています。これは“クリーンでクリア、さらに透明”であり、“ワイヤーでのゲイン”のみの環境とは異なり、ニュートラルなミキシングコンソールサウンドです。それぞれがデジタルコントロールされ、+48 Vファントム電源を提供します。現在はフェーズ入れ替え機能はありませんが、今後のアップデートで可能となります。このプリアンプにはパッドはありませんが、ヘッドルーム/ゲインでさらに10dBが確保され、あなたが期待する効果的な調整が可能です。

各プリアンプはバイパス可能で他のプリアンプのラインインプットに利用できます。または、それぞれをハイゼットダイレクトインストゥルメント用入力に使用します。残念ながらAntelopeは入力インピーダンスを公表していません。

### 使用について: 設定とコンバーター

私はZen Studioを、17インチMacBook Pro・2.5 GHzクワッドcore i7・2011年後期モデルとiMac・3.5 GHzクワッドcore i7、いずれもOS X 10.9で試してみました。設定は簡単で時間がかからず問題ありませんでした。以前、Orion32はCubase 7との問題がありました。しかしZen Studioはこの数ヶ月Cubase 7.5で何の問題もなく動いています。iMacで32サンプルのバッファ設定の

トラッキングさえ可能なのです。このレビューの間、AntelopeはOrion32を私に使わせてくれたのですが、私はこれら2機種間で、コンバーターとしての音質の違いを一切感じませんでした。Zen Studioは、Orion32、Lynx Aurora、Apogee Symphony I/Oなどと比較しその違いは微妙なものです。Zen Studioのコンバージョンは、控えめでスムーズでありながらオープンで素直です。

ビュー)を同時比較しました。

Zen Studioのプリアンプは、Neveでも、APIでも、ChandlerでもMillenniaでもありません。しかしそれらと全く異なるとも言えません。これらは皆、高品質な音質で定評があり、前にお話したように、均衡のとれた現代のコンソールサウンドを提供します。外出先での仕事に、私はZen Studioプリアンプだけを使う事に何の不安も感じません。私は重くてかさばる高価なプリアン

熱くなるためどこに置くのかを考える必要があります。私がOrion32を使い慣れているせいもありますが、Zen Studioの直感的ソフトウェアとハードウェアインターフェイスに慣れるのはあつという間でした。

どれほどの機能が小型の箱の中に詰まっているかには本当に驚かされます。たった5ポンド(約2.3キロ)以下で、トラッキング用のすばらしい品質のマイクプリアンプが12系統、DAWの出入力用となるルービ



### 使用:プリアンプ

Zen Studioのマイクプリアンプについては多くのことがネット上で語られています。ある人は“APIのようだ”と言い、また他の人は“Neveのようだ”とも言います。でも結局は、マイクプリアンプだけでも、多機能なZen Studioと同じようなコストになるのです。私はZen Studioが他に太刀打ちできない要素を見つきたいのですが、それは不可能なようです!

私は、APIのTHE BOX(2014年9月にレビュー)212 APIマイクプリアンプ、Chandler Limited TG2-500(この号でレビュー)と、NeveからのインスピレーションであるGreat River MP500NV(2011年10月にレビュー)、そして私が長年頼りにしているMillennia Media HV-3D(2013年7月にHV-37デュアルラックマウントフォームについてレ

プは全てスタジオにおいて行きます。

また私は、このプリアンプで得られるクリーンなゲインについて驚きました。これらはリボンマイク、ダイナミックマイクに難なく対応し、そのノイズフロアはソースが静寂な場合にだけ認められます。最後に音質の違いですが、ラインレベルモードでのマイク入力と、DB-25コネクターのラインレベル入力では違いは全く感じませんでした。

### 結論

Zen Studioで気にかかることは二つだけです。一つは前面パネルのLCDがより傷つきにくい構造であってほしい事。それはこの機器が安全な携帯用機器であるべきだからです。二つ目はマルチチャンネルコンバーターによくある事ですが、Zen Studioが長いセッションで使用すると熱を持って



ングハードウェア効果用出入力、またはアナログサミングやモニターミックスともなる8系統の出入力、Antelope社の世界レベルと言えるUSB 2.0でのコンバージョン、私がこれまで体験した最も多機能な内蔵型ミキサー、オンボードDSP、これらが全てが詰まったパワフルなポータブルパッケージなのです。

これら全てを考慮した上で、私はZen StudioとOrion32を比べ、より高品質で感動的、非常に価値のある魅力的な価格で、これはかなりの妙技だと思います!

価格: US\$2495

詳細はAntelope Audioホームページをご覧ください。

[www.antelopeaudio.com](http://www.antelopeaudio.com)